



大子町

都市計画マスタープラン

－概要版－

令和7年9月

大子町



袋田の滝キャラクター たき丸

1 都市計画マスタープランの見直しについて

1. 都市計画マスタープランとは

都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2で定める「市町村の都市計画に関する基本的な方針」です。

この計画では、今後20年間の大子町のあるべき姿（将来像）の実現を図るため、土地利用、道路、公園、下水道、河川、面整備など、大子町のまちづくりに関わる都市計画の方針を定めます。

平成15年9月に策定された「大子町都市計画マスタープラン」から20年以上が経過し、急激に進む人口減少や少子高齢化、東日本大震災による被災、令和元年東日本台風による大規模水害の被害、本計画に関わる上位・関連計画の策定・見直しなど、本町のまちづくりに関わる状況は変化しています。

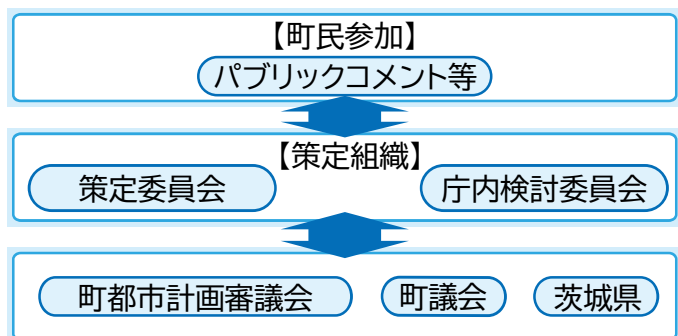
また、本町では令和6年3月に、医療・福祉・商業・居住といった各種都市機能が集約的に立地し、公共交通などによって相互にアクセスできる“集約と連携のまちづくり”を目指す「大子町立地適正化計画」を策定し、移住・定住の促進や地域間連携の推進などを目指しているところです。

これらを背景として、各種社会経済情勢の変化に対応し、上位関連計画等との整合を図るため、都市計画マスタープランを見直すこととしました。



2. 都市計画マスタープランの位置付け

(1) 策定体制



(2) 目標年次

長期的な視点からおおむね 20 年後を目標時期として将来像を定めることとし、目標年次を 2045 年度（令和27年度）と設定します。



※5年ごとの定期見直しを基本として、必要に応じて適宜見直し

3. 大子町の現状とまちづくりの課題

(1) 主要課題

■加速し歯止めがかからない人口減少への対策

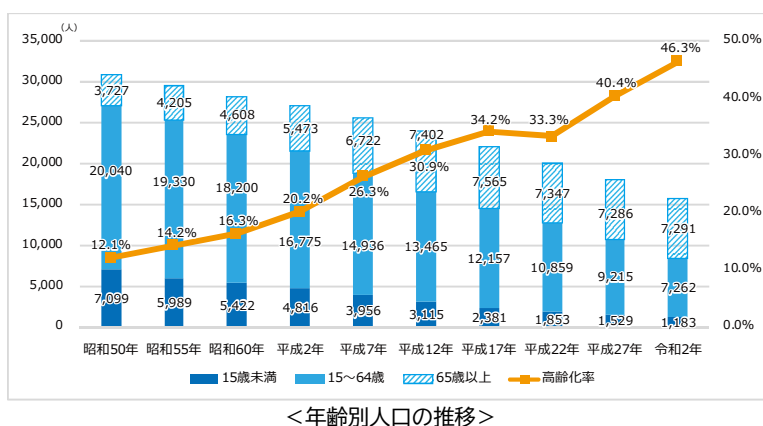
- 令和2年の人口は 15,736 人であり、昭和50年の約半数にまで減少（高齢化率は46.3%）
- ➡人口減少や少子高齢化が進む本町では、移住・定住人口や関係人口を増やすことが最重要課題

■多様な課題への同時対応

- 社会課題の複雑化に伴う総合対策型のまちづくりへ
- 町民や来訪者、双方に役立つ取り組みが重要

■持続するための「集約と連携」

- 人口減少社会に対応した集約と連携のまちづくりをはじめ、効率と効果の双方を勘案したまちづくりへ



■地域情勢に関する状況

- ・自立した中山間地域として水と緑の自然環境を保全しながら観光・レクリエーション等への活用が期待されます。
- ・生活拠点都市として、駅周辺や幹線道路沿道に商業・業務施設や交流拠点、沿道サービス施設を集積することが求められています。
- ・地場産業の振興とともに若者の希望に叶う雇用の創出が必要です。
- ・観光交流の促進による関係人口や交流人口の増加や子育て世代の定着が重要です。
- ・安全安心で持続可能なまちづくりによるまちの魅力の向上が求められます。



■町民ニーズ（第7次総合計画での意向調査より）

- ・「住み続けたい」を叶えるため、企業誘致や働く場所の充実を求めています。
- ・中高生は、安全安心はもちろん、観光交流により多くの人が訪れるための取組と自分たちの快適な生活環境の整備を求めています。

(2) 分野別の課題

■土地利用

- 本町の大部分を森林が占めており、都市計画区域が町域の1.7%にとどまるため、森林や農地などの田園環境の保全を基本とした土地利用を図ることが重要です。
- 人口減少が著しい地域では空き家や荒れ地が増加傾向にあるため、適正な土地利用を図ることが重要です。



■道路・交通

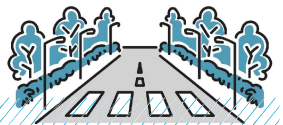
- 周辺都市への円滑な移動や来訪者の利便性を高める広域幹線道路、町内各所の連携を円滑にする都市内幹線道路などの維持や整備が重要です。
- 未整備の都市計画道路の整備等による交通利便性の向上や災害避難路の確保などが重要です。
- 常陸大子駅周辺の既成市街地における総合的な交通環境の向上が重要です。
- 誰もが円滑に移動できる公共交通の維持やデジタル技術等を活用した新たな交通システムを展望することが重要です。
- サイクルネットワークやハイキングコースなどの自転車・歩行環境の向上へのニーズが高まっています。
- 山地に囲まれた地形条件を踏まえ、大規模災害発生時の孤立を防ぐ代替幹線道路の確保が重要です。

■河川・排水

- 山地に囲まれ、複数の河川が集まる地形条件であるため、総合的な治水対策の実施等も踏まえて安全・安心な河川環境であることが重要です。
- 清流久慈川をはじめとする河川の水質保全のため、市街地や集落地における生活排水対策が重要です。
- 河川の治水対策に加えて、景観資源やレジャー資源として親水性の高い環境であることが重要です。

■市街地整備

- 市街地等への人口集積が少ないため、利便性の高い市街地への居住の誘導を長期的に促進していくことが重要です。
- 中心市街地の拠点性や利便性を高めるため、市街地への都市機能の集積が重要です。
- 市街地に隣接して河川や急傾斜地などがあるため、災害リスクの低減と安全な場所への居住の誘導が重要です。



■公園・緑地

- 自然・歴史環境が調和する都市であることが重要です。
- 観光・レクリエーションに関わりの強い公園・緑地や水と緑のネットワークの充実が重要です。
- 市街地等の人口集積地において、日常的な余暇、休憩、運動などの活動を支え、緊急時の一次避難等に役立つ公園や緑地の確保が重要です。
- 鉄道駅や道の駅など人が多く集まる場所では、多様な人の交流を支える広場機能などの充実が重要です。



■公共公益施設

- 人口減少が進む中で、各種施設の効率と効果のバランスを保つことが重要です。
- インフラや施設は、長期的な利活用方針やメンテナンス方針を明確にすることが重要です。
- 学校や公共施設の統廃合に伴う施設跡地への対応が重要です。
- 常陸大子駅周辺をはじめとする都市機能誘導区域においては、人口減少下でも利便性を維持するため、施設の集積を図ることが重要です。



まちづくりの将来像

4. まちづくりの方針

(1) 都市づくりの基本的な理念

■基本理念1：大子町のファンを増やすことで地域活性化に繋げる

- ・豊かな自然やそれにちなんだ観光資源を守り、活用することで、町の魅力を高め、定住人口に加えて交流人口等の関係人口を増やし、“みんなが元気な大子町”を目指します。

■基本理念2：地域の価値を高めることでみんなの幸福感を持続する

- ・都市基盤や生活基盤、経済活動、魅力などの地域の良さを維持・向上できる仕組みを整え、町民が住み続けられ、来訪者が何度も訪れる“みんなの満足が続く大子町”を目指します。

■基本理念3：多様な人の連携で相乗効果を生み出す

- ・町内の多様な主体が協働で取り組むことに加え、町外の人材活用や町外の人の需要も加味し、いろいろな力を町の中に取り込み“みんなで協力し合う大子町”を目指します。

(2) 将来像

**豊かな資源をつむぎ 人々が豊かに暮らし、訪れるまち
奥久慈に輝く日本一幸せなDAIGO**

※第7次大子町総合計画（令和6年策定）が掲げる将来像を踏襲

(3) 都市づくりの目標

■目標1：定住促進と関係人口増加につながる地域の魅力の創出

- ・市街地等における町民の居住を支える道路、公園、上水道、排水などの都市基盤施設の整備を行います。
- ・町内外の円滑な交通や連携を支えるため、幹線道路網や JR 水郡線などの広域交通の維持・整備を行います。

■目標2：大子らしい原風景の根幹である自然や里山環境を守る

- ・良好な自然環境を法制度によって保全するとともに、都市生活と関わりの強い自然資源については、公園や緑地などとして整備します。
- ・奥久慈の豊かな自然と寺社仏閣などの伝統的な歴史が調和する景観や、懐かしさを感じる中心市街地の街並み景観を保全します。

■目標3：集約性や集積性を高め利便性を向上する

- ・常陸大子駅周辺や国道 118 号沿道等の都市機能誘導区域を中心として、町民の日常生活に必要な商業や医療、金融などの生活利便施設の維持・誘導を図ります。
- ・町民が常陸大子駅周辺の市街地を訪れ、生活利便施設を利用しやすいように公共交通やデマンド交通など、多様な交通システムを維持します。

■目標4：持続可能で安全と安心のあるまちづくりを進める

- ・地区ごとの災害リスクに応じて、ハード・ソフト多面的な対策を講じます。
- ・市街地の安全安心を確保する観点からも、人口減少対策に加えて、空き家や空き地の利活用を進めます。

(4) 目標人口

■大子町の将来の基準人口規模

9,331人（2045年度（令和27年度））



5. 将来都市構造

まちづくりの方針を踏まえて、本町では次のような都市構造の実現を目指します。

【町全体の将来都市構造】



◆土地利用ゾーニングの配置

行政区域全体：山林や河川等の非常に良好な自然環境を保全しながら里山暮らしを営む
都市計画区域：交通利便性や都市機能の集積による都市的利便性を生かした暮らしを営む

◆拠点の配置

<常陸大子駅周辺>誰もが訪れやすい公共交通結節点を生かして多様な都市機能を配置する場
<国道 118 号沿道>自動車交通の利便性に対応した店舗等の集積地や拠点集落等
<各駅前地区>JR 駅前の利便性を生かした拠点集落等
<観光レクリエーション拠点>地域の誇りであり来訪者を楽しませる交流拠点

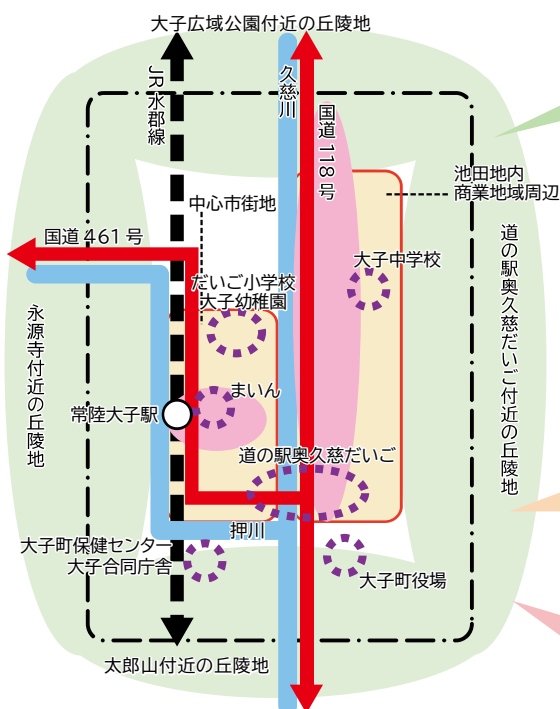
◆連携・交流軸の配置

<水系>自然環境軸
<幹線道路（国道）>生活・産業・レクリエーション等の多様な移動と交流を支える交通軸
<鉄道>生活・レクリエーション等の多様な移動と交流を支える交通軸

【大子町における生活圏域構成と連携の考え方】

大子町の都市計画区域は、行政区域のごく一部のみに設定されており、町民の大部分は都市計画区域外で生活を営んでいる点が特徴です。そのため、地域住民にとって身近な生活圏域においても生活利便施設や公共交通等の維持を図ることで地域住民の生活利便性を支えます。また、都市機能が特に集積し、利便性の高い大子地区を中心として各地区と公共交通等による連携を図ることにより、町民の居住・定住を支えつつ町外からの移住を促します。

【都市計画区域の将来都市構造】



◆土地利用ゾーニングの配置

<山地・丘陵地>市街地を囲む自然環境・景観ゾーン
<中心市街地>常陸大子駅周辺で生活利便施設や公共交通が充実したゾーン（用途地域）
<池田地内商業地域周辺>国道 118 号沿道で商業やサービス施設等が充実したゾーン（用途地域）

◆拠点の配置

<公共交通拠点>常陸大子駅をターミナルとした鉄道とバス等の結節点
<自動車交通拠点>道の駅奥久慈だいを拠点とした自動車交通等の結節点
<公共公益施設等の拠点>行政施設、小・中学校、幼稚園、文化福祉施設「まいん」の拠点

◆連携軸の配置

<自然と交流の南北軸>久慈川と国道 118 号の骨格軸
<自然と交流の東西軸>押川と国道 461 号の骨格軸

■都市計画区域

- ## ■都市計画区域外

- ### ■常陸大子駅周辺地区

- ## ■国道118号沿道地区

- ### ■ 太子中学校周边地区

- ## ■役場周辺地区

- ### ■保健センター周辺地区

- ### ■（仮称）北関東北部横断道路結節点地区

-

-

[illegible]

(4) 河川・排水の方針

- ・令和元年東日本台風で甚大な被害が生じた久慈川水系の一部は、引き続き治水対策に取り組めます。
- ・観光・レクリエーション資源として良好な自然環境の保全や親水性の向上に取り組めます。
- ・河川が有する生物生息空間や良好な景観の機能や役割を活用し、安全・安心な治水などに役立つグリーンインフラ（自然環境が有する多様な機能をインフラ整備に活用すること）として取り組めます。
- ・雨水排水は常陸大子駅周辺の市街地において「大子町公共下水道事業計画」に基づき排水施設などの整備を推進するほか、生活排水は「大子町環境基本計画」に基づき快適で衛生的な町民生活の実現を図ります。



(5) その他の都市施設の方針

- ・その他の都市施設は、町民の健康的で衛生的な日常生活を支え、良好な自然環境を維持するため、ごみ処理場（環境センター）、し尿処理場（衛生センター）、火葬場（大子町斎場）を配置します。
- ・現在の施設を維持しつつ、設備の老朽化などの状況を踏まえて適宜更新を図ります。
- ・効率的な行政運営の観点から、施設・設備の長寿命化の検討や、周辺自治体との連携も念頭に置きます。

(6) 地区計画の方針

■大子駅前地区の方針

- ・日常生活の利便性が高い生活拠点としての役割と、まちなか観光拠点の役割を担うことで、生活者と来訪者の交流を創出し、生活・観光・交流を柱としたまちづくりにより、中心市街地の活性化を図ります。
- ・昔ながらのまちの雰囲気を生かし、大子らしい魅力的なまちなみ景観の形成・維持を図ります。

■その他の地区の方針

- ・役場周辺及び保健センター周辺など、既に公共公益施設が立地し行政サービス拠点となっている地区は、従来の機能を将来にわたって維持するため、地区計画制度などの土地利用規制・誘導方策の適用を検討します。



(7) 都市景観の整備の方針

- ・個性的で良好な景観の骨格となっている八溝山系の山地や丘陵地の山岳景観、久慈川水系の河川による清流景観、川沿いの集落地や果樹園、水田等による山村集落景観、袋田の滝や月待の滝などの風光明媚な自然景観、神社仏閣や歴史的由来のある名所などの伝統的歴史景観、常陸大子駅周辺の懐かしさやレトロ感のある街並みなどの都市景観について、景観資源の抽出・調査を基に保全・活用を検討します。
- ・少子高齢化等により、集落や里山などの荒廃が進むことも懸念されるため、不法投棄の監視体制の強化、荒廃する山林や耕作放棄された農地などの環境美化等について検討します。



(8) 安全・安心のまちづくりの方針

- ・復興まちづくりをより円滑に推進するため、発災前から町民への災害リスクの周知や将来的なまちづくりの方針となる本計画の周知を図ります。
- ・水害の発生が危惧される河川・水路沿いの低地などにおけるハード・ソフト両面の対策を講じます。
- ・斜面崩落が危惧される急傾斜地では、法による位置付けや整備を検討し、宅地化等の抑制を図ります。

(9) 持続可能なまちづくりの方針

- ・持続可能なまちづくりの観点から、市街地や都市的発展の可能性が高い拠点的な地区を重点・先行的に整備するなど、効率的かつ効果的な維持・整備を行います。
- ・担い手不足、社会的変化やニーズの多様化等に対して、様々なデジタル技術を活用した行政運営のほか、多面的なまちづくりに取り組めます。
- ・本町の豊かな自然資源を生かしつつ、魅力ある里山景観を維持し、これらを通じて地球温暖化対策への貢献を行います。



7. 実現方策

(1) リーディングプロジェクトの設定と方針

先導的な役割を担うリーディングプロジェクトを位置付けます。リーディングプロジェクトは、「まちづくりの将来像」に示した「都市づくりの目標」の達成に役立てるものであるため、4つの都市づくりの目標項目ごとに組み立てます。

■地域の魅力の創出プロジェクト

本町の魅力の向上・創出により、町への愛着度を高めて定住促進に繋げるとともに、来訪者や本町出身者等の満足度を高めることなどにより、関係人口の増加を図るものです。

<事業などのメニュー>

- 居住環境の整備
- 交通システムの維持
- 総合的な魅力向上
- 自転車環境の充実
- 多様な交流の支援

<SDGs※との関わり>



■大子らしい原風景を守るプロジェクト

大子らしさのひとつである、盆地に開けた懐かしさを感じる市街地とそれを取り囲む山地や丘陵地、久慈川などの清流が織りなす「自然とまちがほどよく調和する原風景」を守り、次世代に遺すものです。

<事業などのメニュー>

- 自然環境の保全
- 景観保全と整備
- 余暇とまちづくり
- 水環境の向上
- 農林業の振興

<SDGs※との関わり>



■まとまりある利便性向上プロジェクト

居住誘導区域などにおいて、集約と連携に関連する生活施設や身近な交通手段を保ち続けることで、暮らしやすさの維持・向上を図るものです。

<事業などのメニュー>

- 生活利便施設の維持
- 関連施設の連携
- 既存ストックの活用
- 交通システムの維持

<SDGs※との関わり>



■持続可能で安全・安心なプロジェクト

災害や犯罪などに対する町民の安全・安心の確保とともに、町民の相互の支え合いなどによるコミュニティ維持に加え、まちづくりの仕組みを構築することで、地域の自律的な継続的改善や向上を図るものです。

<事業などのメニュー>

- 自然災害対策
- 防犯対策
- 都市機能と移動手段
- 歩行環境等の向上
- バリアフリー環境の向上
- 地域コミュニティの充実
- 効率的都市運営

<SDGs※との関わり>



※SDGs: 国連が提唱する「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」は、2030 年までに世界が直面する様々な課題を解決し、持続可能な社会を築くための世界共通の 17 の目標です。

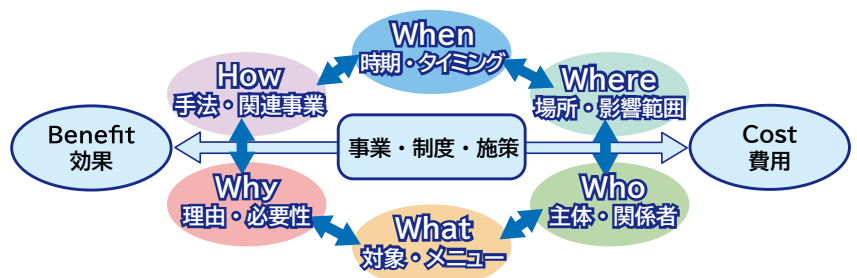
(2) まちづくりの推進のための工夫

PDCA サイクルの考え方を活用した事業管理による継続的改善を基本とし、5W1H（時期、場所、主体、対象、理由、手法）を具体的に決める事業プログラムを明確にするとともに、投資効果としての費用対効果を確認します。

■PDCAによる戦略的なまちづくりの推進



■事業プログラムなどの明確化



大子町都市計画マスタープラン

発行：大子町 令和 7 年 9 月

編集：大子町役場 建設課

〒319-3521 茨城県久慈郡大子町大字北田気 662 番地

TEL：(代表) 0295-72-1111 (直) 0295-72-2611

<https://www.town.daigo.ibaraki.jp/>

▼大子町ホームページ



袋田の滝キャラクター たき丸